

## 富士大学研究者情報

大学院経済経営システム研究科、経済学部経済学科

教授

齊藤 国雄

さいとう くにお

### 研究者基本情報

生 年	昭和15（1940）年
最終学歴	エジンバラ大学大学院修士課程修了
取得学位	修士(経済学) = M.Sc.Econ.
学位取得年月	昭和46（1971）年7月
出身地	広島県
専門分野	国際金融
担当講義	金融論特論（大学院）、国際金融論特論（大学院）、演習I（大学院）、演習II（大学院）、金融論 B（学部）、国際経済学（学部）、国際経済社会と日本(学部)
所属学会	日本金融学会、東北経済学会
長期研究テーマ	国際金融システムの強化、改革についての諸提案の検討、考察。
短期研究テーマ	1) 日本を含むアジア各国の金融セクター改革の動向。 2) 国際収支危機における重債務国への支援のありかた、等についての考察。 3) 東日本大震災の被災地における金融動向と今後の対応
1年以内に発表予定の研究業績	

### 研究業績 (2017年9月末日現在)

#### 【著書】

1	「アジア通貨危機とIMFの役割」、荒巻健二 『アジア通貨危機とIMF』、日本経済評論社、pp.193-209. 1998年6月
2	“Prospects and Policy Issues in Regional Economies” in “Southeast Asian Trade and Investment – Post Crisis Reforms and International Cooperation” edited by F. Montes and Godwin Chu, East – West Center, University of Hawaii, pp.241-243, 1999年3月
3	「アジア通貨危機とIMFの役割」、慶応義塾大学地域研究センター編 『アジアの金融資本市場』 慶応義塾大学出版会 pp75-118 . 1999年12月

#### 【論文】

1	“Korea’s Economic Adjustments under the IMF-supported Program” “Presentation at a Conference sponsored by Sogan University” “Sogan Institute of International and Area Studies Seminar Paper Series, 98 – 02, 1998年1月
---	---

2	“The Financial Crisis in Korea – from Miracle to Meltdown ; Comments” , Jan Joost (edit), “Regulatory and Supervisory challenges in a New Era of Global Finance”, FONDAD The Hague, pp. 55-60, 1998年3月
3	「経済支援のありかたー金融支援」、財務省アジア経済情勢研究会報告書、pp. 158-166, 1999年3月
4	「P R S Pとは何か」『国際協力銀行セミナーにおける発表』（未定稿）、2002年2月
5	「岩手三銀行の不良債権処理についてー全国銀行グループとの比較」、『富士大学紀要』第37巻第1号、2004年8月、（大崎透、吉田康則との共著）
6	「中国の為替市場介入と不胎化操作の持続可能性について」、『富士大学紀要』 第39巻第1号、2006年8月、
7	「北東北七銀行の地域密着型金融の推進状況について」、『富士大学紀要』 第40巻第1号、2007年8月、
8	「北東北七地方銀行の近年における貸出動向について」、『富士大学紀要』 第41巻第1号、2008年8月、
9	「量的緩和政策と信用緩和政策ー中央銀行の非伝統的資金供給手法について」、『富士大学紀要』 第42巻第2号、2010年3月、（長尾龍也との共著）
10	「中国のマクロ金融政策についての一考察」、『富士大学紀要』 第43巻第1号、2010年8月、
11	「円高とデフレの悪循環ー為替レート政策に関する一考察ー」 『富士大学紀要』 、第44巻第2号、2012年3月
12	「東日本大震災後の被災地の金融状況と今後の課題」、『富士大学紀要』 第45巻第1号、2012年8月
13	「2000年代後半における中国の金利政策ーテイラールール推計による一考察」、『富士大学紀要』 第45巻第2号、2013年3月、（高微との共著）
14	「人民元切り上げは中国の輸出入に影響をおよぼすか？ー中国の輸出入の価格弾力性推定による検証」 『富士大学紀要』 第46巻第2号、2014年3月、（費翔との共著）

【その他の執筆】

1	「アジア通貨危機への対応ーその実相」、『外交フォーラム』、Nov. 98, pp52-54, 1998年10月
2	「IMF方式以外にアジア金融危機を終息させる方法はない」、『日本の論点 99』 文芸春秋社、pp. 84-87, 1998年11月
3	「国際金融とIMF」、『第47期一橋フォーラム』、2001年7月
4	“Monetary Approach to Balance of Payments – Application to China”, 『星辰ー富士大学学術研究会報』、第66号、2005年3月。（王江との共著）
5	「円・元為替レートと日本経済（2010年度富士大学・花巻市民セミナーにおける講演）」、『星辰ー富士大学学術研究会報』、第78号、2011年3月。
6	「最近の金融・経済情勢についてー異次元緩和の限界と新政策の模索」、『星辰ー富士大学学術研究会報』、第90号、2017年3月。

【学会発表】

1	「最近のアジア通貨危機と I M F の役割」、国際経済学会関東支部、1998年1月
2	“On Private Sector Involvement (PSI)”, Presentation at the APEC Financiers Meeting in Brunei, 2000年9月
3	“Financial Sector Reform in Asia”, Wharton Business Conference, Philadelphia, USA 2000年11月
4	「IMFの金融セクター評価と日本の不良債権問題」、日本経済研究センター、2001年12月
5	“Economic Reform and the Future Agenda; Four Years after Korea’s Economic Crisis”, KDI/MOFE Symposium, Seoul Korea, 2002年2月
6	“China’s Balance of Payment and Monetary Developments, 1994 – 2004: An Analysis Using Monetary Approach”, 東北経済学会、2004年9月 (王江との共同発表)